

3月議会 個人質問(3月4日) 高橋ゆうすけ議員

30人学級の例外規定や教員の長時間勤務の改善を 教育委員会の都合が子どもたちを苦しめている

高橋ゆうすけ議員は3月4日の本会議で、学校教育と敬老パスについて質問しました。

34人で2クラス(17人)が少なすぎる？

名古屋市は、小学校1・2年生で30人学級を、中学校1年生で35人学級を実施しています。高橋議員が今年度を実施した少人数学級の検証結果についてだと「児童は学級に落ち着きを感じやすい」「教員は生活習慣の確立や人間関係の把握がしやすい」「学級人数と学力に相関は見いだせない」と答えました。それなのに、小学校1・2年生で33人とか34人のクラスがいくつもあります。

1・2年生で1学級が31人以上となる学校(2018年度)	
1年生	単学級14校 ・31人(5校) ・32人(2校) ・33人(4校) ・34人(3校)
	複数学級7校 ・30~31人の5クラス(2校) ・同 6クラス(1校) ・同 8クラス(1校) ・31人が5クラス(1校) ・32人が5クラス(1校) ・34~33人の6クラス(1校)
2年生	単学級10校 ・31人(1校) ・32人(4校) ・33人(3校) ・34人(2校)
	複数学級4校 ・30~31の5クラス(1校) ・31~32の5クラス(1校) ・32~33の6クラス(1校) ・同 7クラス(1校)

すべての小学校で少人数学級を

高橋議員は「なぜすべての小学校で少人数学級を実施していないのか」と追求。教育委員会は「1クラスしかない学校では2つに分けると1学級の人数が少なすぎる。大規模校ではクラスが多いと特別教室などの利用に差しさわりが出るので1学級しか増やさないと

答えました。

高橋議員は「行政の都合を押し付けていると言わざるを得ない。1学年単学級の学校ではクラス替えができないことを問題としている教育委員会が、クラス替えできない状況をあえて作り出している」と厳しく指摘し「すべての学年で少人数学級を」と求めました。



教員の長時間勤務で子どもに寄り添えない

教員の長時間労働によって授業準備の時間が足りない、「先生、遊んで」「先生、話を聞いて」という声に応じたり、いじめなどの深刻なケースに対応したりするための時間や心の余裕がなくなっています。

高橋議員は、文科省がガイドラインで示した時間外在校時間の上限45時間を超える教員は昨年4月で58%、中学校だけだと63%、産休等への常勤講師も今年2月は27校で配置できず、さらに多忙化している実態を示し、「教員の増員で、子どもに寄り添った活動の保障を」と求めました。教育長は「定数拡大を国に求めてきた。実情に応じた教員配置に努める」と答えました。

時間外在校時間別教員数(人・2018年4月)					
	小	中	特	高	
全市の教員数	6,482	3,267	871	489	
時間外在校時間	45時間以上	3,549	2,077	153	448
	うち80時間以上	840	1,075	33	206

敬老パス 利用回数制限をしなくてもJR等への利用拡大はできる

予算に占める敬老パス事業費は増えていない

敬老パスは、交付年齢と一部負担金はそのままに、名鉄やJRなどの私鉄への利用拡大の方向性が示されています。しかし、事業費142億円という暫定上限の維

持をまもり、そのための源確保策の一つとして利用制限の検討も示されています。

高橋議員は「過去最大の事業費だった2003年の事業費の一般会計に占める割合は1.34%。暫定上限を決めた2015年は1.3%、新年度予算では1.14%。2015年とおなじ1.3%なら156億円で、利用拡大に必要な9億円は十分まかなえる」と指摘し「制度の目的を大切にするならば利用上限は設けるべきではない」と追求しました。健康福祉局長は「利用限度額の設定は142億円を維持しながら対象交通拡大に係る財源を確保する方策の一つ」という答弁を繰り返すだけでした。

